

2000年の記憶を未来へつなぐために

ソンマ・ヴェスヴィアーナ発掘調査プロジェクトからみなさまへ

ローマ帝国初代皇帝アウグストゥスは、イタリア半島南部、ナポリ近郊のヴェスヴィオ山の麓の邸宅で最期を迎えた。

古代ローマの歴史家タキトゥスの記述以来、人々は「この地のどこかに、2000年前の皇帝アウグストゥスの別荘が眠っている」と語り継いできました。1920年代、ヴェスヴィオ山北麓のソンマ・ヴェスヴィアーナで、一人の農夫が偶然、古代ローマ時代の柱や彫像を発見します。しかし、イタリア国内の政治的混乱と財政難により発掘は中断され、遺跡は再び土の中へ埋もれてしまいました。

それから約70年後の2002年。

私たち東京大学の調査隊が発掘を開始しました。そこに姿を現した壮大な建築遺構を前にして、私たちは「こここそアウグストゥス最期の別荘なのではないか」という大きな夢を抱きました。しかし、考古学・火山学の調査の結果、それらは紀元後2世紀後半の建築であることが判明し、その期待は大きく揺らぎます。

それでもー

「掘らないとわからない。まだ希望を捨てない」

初代リーダー・青柳正規先生の言葉を胸に、発掘調査を続けました。20年目の2021年、ポンペイを埋めた79年噴火の火山灰が現地表から15mの深さで初めて確認されました。この発見で調査は大きく前進し、2025年には火山灰の下から、ローマ時代の遺跡では類例のない「7基ものカマド」を発見されたのです。

この場所が、古代ローマにおいて極めて特別な意味を持つ遺跡だった可能性が、再び強く浮かび上がってきたのです。今、私たちは、2000年間解き明かされなかったローマ史最大級の謎の核心へ、かつてないほど近づいています。

このプロジェクトの価値は、単なる歴史解明だけではありません。発掘とは、地中に埋もれた過去を掘り起こし、そこに生きた人々の営みや記憶を未来へ手渡していく営みです。20年以上にわたり、日本とイタリアの研究者たちが協力し続けてきたこの調査は、文化遺産を「人類共通の財産」として守り、未来へつないでいく、国境を越えた挑戦でもあります。

しかし今、この発掘調査は深刻な資金難に直面し、存続の危機を迎えています。

もしここで調査が途絶えれば、人類史の重要な断片が失われてしまうかもしれません。だからこそ今、皆様のお力が必要です。これは単なる考古学調査ではありません。古代ローマと現代、日本とイタリア、そして過去と未来をつなぐ挑戦です。

幾度埋もれても、人は歴史を掘り起こしてきました。その灯を、ここで絶やさないために。

どうか、私たちに掘り続ける機会をお与えください。

2026年5月
ソンマ・ヴェスヴィアーナ発掘調査プロジェクトメンバー 一同